

産業別四半期見通し調査結果 (2020年4～6月期見通し)

■ 長野県産業天気図

◇ 2020年1～3月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が3業種、「小雨(低調)」が7業種、「雨(不調)」が1業種となった。

◇ 2020年4～6月期の見通し

- 見通しは、「薄日(順調)」が1業種、「小雨(低調)」が8業種、「雨(不調)」が3業種となった。方向感では、「やや上昇」が1業種、「やや下降」が8業種、「下降」が3業種となっている。

■ 4～6月期見通しのポイント

- 製造業では、「生産用機械」「自動車部品」が「小雨(低調)」から「雨(不調)」、「食料品製造」が「曇り(普通)」から「小雨(低調)」となる見通し。
- 非製造業では、「機械器具卸」「大型小売」が「曇り(普通)」から「小雨(低調)」となる見通し。

天気図記号	現況(1-3月期)	見通し(4-6月期)	方向感	12業種中
晴れ(好調)	0 業種	0 業種	↑ 上昇	0 業種
薄日(順調)	1 業種	1 業種	↗ やや上昇	1 業種
曇り(普通)	3 業種	0 業種	→ 横ばい	0 業種
小雨(低調)	7 業種	8 業種	↘ やや下降	8 業種
雨(不調)	1 業種	3 業種	↓ 下降	3 業種

業種	現況(1-3月期)	見通し(4-6月期)	業種	現況(1-3月期)	見通し(4-6月期)	業種	現況(1-3月期)	見通し(4-6月期)
生産用機械			食料品製造			公共工事		
電子部品・デバイス			機械器具卸			民間工事		
自動車部品			大型小売			貨物		
飲料製造			自動車販売			観光		

■調査内容: 業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


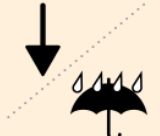
■調査期間: 2020年3月中旬～4月中旬


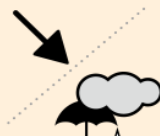
■調査回答企業: 県内主要企業12業種の119社


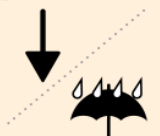
照 会 先


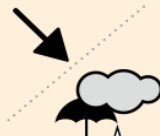
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、中村(亮))
TEL: 026-224-0501


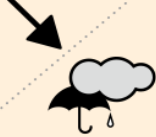



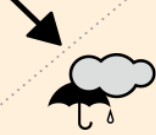
生産用機械	自動車関連を中心に受注は大きく落ち込む見込み
<p>● 現況</p> 	<p>工作機械や半導体製造装置などの生産用機械の受注は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス(以下、新型コロナという)の影響で設備投資が慎重化し低調だった。今後は完成車メーカーの工場停止が影響し、自動車関連を中心に受注は大きく落ち込む見込み。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 工作機械の受注は、国内の幅広い業種で減少する見通し。中国向けは新車需要の低迷から低調が見込まれ、米国・欧州向けは営業活動の制限から大幅に減少する見込み。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 半導体製造装置は、国内・海外ともにテレワーク増加に伴うクラウド需要の高まりから、データセンター向けの受注増加が見込まれる一方、自動車向けの半導体需要が減少することから、製造装置全体での受注は低調となる見通し。


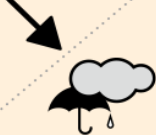
電子部品・デバイス	スマートフォン向けは需要減少を懸念、車載用は受注減少を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>スマートフォン向けは生産が堅調だったが、車載用の生産は減少した。新型コロナの影響により、最終製品の販売停滞が懸念されるほか、各種製造装置に組み込まれる部品も減少が見込まれており、総じて受注は減少する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スマートフォン向けは、足元では今秋発売予定の新型モデルの受注が堅調で、今後生産が本格化する見込みだが、新型コロナの感染拡大により、スマートフォン需要が減少する懸念がある。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 車載用は、受注減が続いているが、今後は自動車メーカーの工場停止等の影響により、受注はさらに減少する見通し。


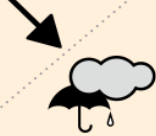
自動車部品	工場停止により受注は大幅に減少する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>2月後半から新型コロナの感染拡大の影響で、主に中国向けの部品受注が減少した。また、感染が拡大している国内や米国、東南アジアでも工場停止や生産調整などの動きがみられ始め、今後は受注が大幅に減少する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 国内は、生産調整や工場を停止するメーカーが多く、受注の減少が見込まれる。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 北米向けは、外出禁止などにより新車需要が落ち込んでおり、受注は減少する見通し。中国向けは、現地の工場を再稼働するメーカーが出始めているが、新車需要の減少は続くともみられ、受注は低調を見込む。東南アジア向けは、物流停滞や工場停止により、受注は減少する見通し。



飲料製造	外出自粛の影響により、需要は減少する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>新型コロナの影響で外出自粛が続く中、宿泊施設や飲食店などでの飲食機会が減少し、3月頃から飲料需要は減少した。外出自粛は当面続くともみられ、今後も需要減少が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 清涼飲料水は、野菜飲料が外出機会の減少により、携行しやすい容量が小さい製品を中心に需要は減少する見通し。また、果汁飲料は、昨年の台風被害による工場の復旧が進んでいない事業者もみられるほか、リンゴ農家の被災による原料不足も発生しており、生産は減少する見通し。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 清酒やワインなどのアルコール飲料は、外出自粛で家庭での需要は増加するが、宿泊施設向けや居酒屋などの外食向けの需要が減少するため、全体では減少する見通し。


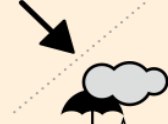
食料品製造	家庭用の需要は堅調だが、業務用は減少を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>外出自粛により、宿泊施設向けや飲食店向けなどの業務用需要が3月頃から減少したが、日持ちがよく調理が簡便な冷凍食品や即席みそ汁など家庭用の需要は堅調だった。今後は、外出自粛の動きが強まるとみられ、業務用の需要は一段の減少を見込む。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌は、即席みそ汁など家庭用の調理が簡便な商品の需要は高まるが、業務用の加工みそは減少の見通し。乾燥食品や大豆関連製品も、家庭用の需要は横ばいだが、業務用の具材は減少が見込まれる。 ● コンビニ向け惣菜は、外出自粛によりイベントや旅行などでの利用は減少する見通し。加工肉は、無添加製品を中心に家庭用の需要が堅調な見込み。


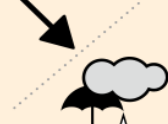
機械器具卸	需要減と営業活動の制限により受注は減少する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は幅広い業種で設備投資が慎重化し低調だった。今後は、新型コロナの影響で設備投資マインドのさらなる低下が予想されるほか、営業活動の制限により受注は減少する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械やFA機器などの機械受注は、自動車関連を中心に投資が抑制され大きく落ち込む見込み。切削用工具類などの消耗品受注は、生産活動の低下から低調となる見通し。 ● 空調機器は、教育施設での空調設備工事が続くため、受注は堅調な見込み。 ● 配線機器や分電盤などの電設資材は、昨秋の台風被害からの復興工事が下支えし、受注は堅調に推移する見込み。


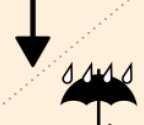
大型小売	生活必需品の需要は底堅いが、新型コロナによる売り上げへの影響を懸念
<p>● 現況</p> 	<p>大型小売店は、暖冬により冬物衣料がふるわなかったものの、新型コロナに伴う買いだめや外食控えなどで家庭内需要が高まり、食料品や日用品は順調に推移した。今後は、外出自粛による客数の減少などが見込まれ、売り上げへの影響が懸念される。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、不要不急の外出を控える動きから客数の減少が見込まれ、主力の衣料品や物産展などの食料品催事は、売り上げが落ち込むことが予想される。 ● スーパーは、内食や中食の浸透など家庭内需要は増加しており、食料品や日用品などの生活必需品は堅調な推移が見込まれる。一方、新型コロナによる外出自粛が長期化すれば、行楽用品の売り上げは減少する見通し。

自動車販売	工場停止や生産調整などにより販売台数は減少する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>消費税増税以降低迷している販売台数は、新型コロナの感染防止のための外出自粛によりさらに下押しされ、前年を下回った。新型車の販売は順調だったが、買い替えを検討していた消費者が新型コロナの影響で購入を先送りする動きがみられ、全体の販売は低調だった。今後も外出自粛や需要の低迷が続く、販売台数は減少する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車販売は、工場停止による納車遅れが懸念され、低調となる見通し。 ● 中古車販売は、新車販売台数の減少により下取り車の流通量が減少し、弱含む見込み。 ● 輸入車販売は、海外メーカーの工場停止により車両を確保できなくなる懸念があり、前年を下回るとみられる。

公共工事	台風災害の復旧工事が本格化し工事量は増加
<p>● 現況</p> 	<p>台風災害の復旧工事が増え始めた。今後は復旧工事の本格化により、土木工事を中心に工事量は増加する見通し。一方、技術者不足や工事の入札見送りは引き続き見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国では、三遠南信自動車道の建設に伴う周辺の工事用道路や橋梁工事が続くほか、各地で国道の補修や砂防工事などが発注されており、今後も安定した工事量となる見通し。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県では、防災・減災のための緊急対策工事に加え、東北信地域を中心に台風被害を受けたインフラや公共設備の復興工事が本格化し、例年を上回る工事量の発注が見込まれる。 ● 市町村では、庁舎、文化施設、学校関連の新設工事や既存施設の改修工事が見込まれ、例年並みの工事量を維持するとみられる。

民間工事	企業の設備投資抑制により工事量の減少を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>米中貿易摩擦に伴い企業の建設投資は弱含んだ。今後は新型コロナの影響も加わり、工事量の減少が見込まれる。新設住宅も需要の先送りにより、低調に推移するとみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、非製造業では宿泊施設や福祉施設等の新設があるものの、製造業では投資に慎重な姿勢が広がっており、総じて弱含んでいる。今後は、新型コロナによる投資マインドの冷え込みで、企業の建築工事は減少が見込まれる。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅関連は、住宅ローン減税が必要喚起の一定の下支えになっているが、新型コロナの影響で住宅展示場への来場者数が減少しているうえ、中国製の水回り品など建設資材の調達に遅れがみられ、着工数は低調に推移する見通し。

貨物	工業製品を中心に運送量は減少する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>新型コロナの影響に伴い輸出製品を中心に運送量は落ち込んだ。今後も工場の稼働停止や稼働率低下を受け、工業製品を中心に運送量は減少する見通し。こうした中で、定期便は運送量に限らず運行を確保する必要があり、ドライバー不足・車両不足は続く見込み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生産用機械の運送量は、米中貿易摩擦に加えて新型コロナの影響に伴う需要減少が続く、国内・海外向けともに前年を下回る見通し。自動車部品関連も中国関連の輸出入の停滞で需要が大きく減少し、運送量は前年を下回るとみられる。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品関連や日用品は、レトルト食品やトイレットペーパーといった一部の製品で買いだめが発生するなど増減の変化が激しいものの、総じて堅調な運送量を見込む。

観光	観光客数の大幅な減少により、旅客や宿泊需要は大きく落ち込む
<p>● 現況</p> 	<p>雪不足でスキー場の利用を目的とした観光客数が減少した上、2月後半からは新型コロナの感染拡大による各種イベントの中止や外出自粛などが影響し、鉄道やバスなどの旅客や宿泊施設の利用客数は減少した。4月以降も貸切バスや宿泊施設の予約状況が悪く、観光客数は大幅に減少する見通し。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、不要不急の外出自粛により、鉄道やバス、タクシーいずれも利用客数の減少が見込まれる。
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊施設は、キャンセルが多いほか、例年と比べ予約が低調で、利用客数は大きく減少する見込み。一部では売り上げの見通しが立たず休館日を設ける対応もみられる。